

第6学年 体育科 学習構想案

菊池市立花房小学校 教諭 村上晴菜

1 単元構想

単元名		つなげよう！楽しもう！ミニテニス		
単元の目標		(1) ミニテニスの行い方を理解するとともに、ラケット操作を身につけ、チームの作戦に基づいて簡易化されたゲームをすることができる。 (2) チームの特徴に応じた作戦を考えたり、選んだりするとともに、自分やチームで考えたことなどを友達に伝えることができる。 (3) 全員が楽しく参加できるようにルールを守ったり、勝敗を受け入れたり、友達の作戦を認めたりしながら、安全に活動ができる。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	① ミニテニスの行い方や打ち方について言ったり書いたりしている。 ② 打ちやすい高さや場所に移動して、色々な打ち方でボールを返球することができる。 ③ 得点につながる攻撃や守備をすることができる。	① 安定してボールを打ち返す動き方について考えたことを伝えている。 ② 得点につながる攻撃や守備の仕方について考えたことを伝えている。 ③ 自分やチームの特徴に応じて作戦を選んだり、選んだ作戦を仲間に伝えたりしている。	① ルールやマナーを守り、仲間を応援したり助け合おうとしたりしている。 ② ゲームや練習を進んで行い、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりしている。 ③ ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、自分の役割を果たしたり、用具の安全に気を配ったりしている。	
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）				
ボール操作について理解し、同じチームの友達と協力して点を取るために作戦を立てたり、積極的に動いたりして勝敗関係なくミニテニスを楽しんでいる児童。				
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）			本単元で働かせる見方・考え方	
自ら技能を高めてラリーを続けたり、同じチームの友達と協力して得点したりしてミニテニスを楽しむ。			ラリーを長く続ける打ち方や得点につながる打ち方を「する」、得点を喜んだり、応援したりして「見る」、審判や得点をつけてゲームを「支える」、行い方や打ち方を「知る」といった多様な関わり方でミニテニスを楽しむこと。	
指導計画と評価計画（9時間取扱い）				
過程	時間	学習活動・児童の反応	○学習への支援	○評価・備考
一	2	1 単元のねらい、場の作り方、ドリルゲーム、メインゲーム、ルールの説明。 2 試しのゲームを行い、ルールの工夫と自分たちの課題を考える。 ・ラリーが続かない。 ・狙ったところに打てない。 ・打つ強さが分からない。 ・ノーバウンドで返球して良いルールにしたい。 ・ダブルスだからどっちが打った方がいいか分からない。	○テニスとはどんなものか動画を見せたりテニス選手の写真を提示したりする。 ○視覚的に分かりやすいように、パワーポイントを使ってドリルゲームやメインゲームのルールを説明する。	知① 態③

二	3	<p>3 色々な打ち方を知り、実際に打つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅いボールはラケットを下から上に弱い力で動かす。 ・ラケットを横に大きく動かすと深いボールになる。 <p>4 打ちやすい高さや場所に移動して、返球されたボールを打ち返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰の高さで打つと相手コートに入りやすい。 ・ボールの落下点を予想して、ちょっと後ろに移動しよう。 <p>5 打ちやすい高さや場所に移動して、返球されたボールを打ち返してラリーを続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空いたスペースをなくすとラリーが続く。 ・高めのボールの方が返球しやすい。 	<p>○「つなげるボール」「強いボール」「浅いボール」「深いボール」で打つために、ラケットの向き、強さ、体のどのへんで打つかという視点を与える。</p> <p>○ICTを活用し、前時の動画を見ながら安定してボールを返球するためのポイントを考えさせる。</p> <p>○子どもの意欲を高めるために、目標回数を決め、ラリーが長く続くようにミニテニスを行わせる。</p>	<p>知①</p> <p>思①</p> <p>知②</p>
三	3	<p>6 どこにどのように打つと得点に繋がるか見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空いているスペースに強く打つ。 ・二人の間に打つ。 <p>7 得点に繋がる攻撃や守備の仕方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅いボールの時をねらおう。 ・守備のポジションは前後にしよう。 <p>8 自分やチームの特徴に応じた作戦を選んだり、考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅いボールが得意だから前のポジションにいくね。 ・深いボールからいきなり浅いボールを打とう。 	<p>○個人で考えを学習シートに記入し、それをもとにチームで作戦ボードを使って共有させる。</p> <p>○メインゲームでは、点が動くたにに自分たちの動きを見直し・改善し、スモールステップで作戦を良くしていく時間をとる。</p> <p>○これまで出てきた作戦を提示し、自分やチームの良さ、特徴に応じた作戦を選んだり、考えたりする。</p>	<p>知③</p> <p>思②</p> <p>思③</p>
四	1	<p>9 仲間と協力してミニテニスのゲームを楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦が成功して得点できてうれしいな。 ・友達がしているのを見るのも面白いな。 ・もっとラリーを続けたいな。 	<p>○最後にミニテニス大会を設定することで、これまでの学びを確認したり、自分の変容に気づいたりすることができるようにする。</p>	<p>態①</p> <p>態②</p>

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
小学校指導要領第5学年及び第6学年 [知識及び技能] (イ) 個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすること。 [思考力、判断力、表現力等] (イ) 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶこと。 (ウ) 課題解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 [学びに向かう力、人間性] 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。				
教材・題材の価値				
ネット型のゲームでは、攻防がネットで分かれているため、思考した攻め方や作戦が実現しやすく、思考した内容を確認、成功を実感するのに適している。また、テニスはネット型の「受ける」「つなぐ」局面がなく、得点を取る終盤の局面の楽しさを味わいやすくなっている。ボールが軽く軟らかいため、恐怖心なく簡単に操作ができるとともに、ボール操作に大きな個人差を生まず楽しむことができる。				
本単元における系統				
<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 第3学年及び第4学年 ゲーム(ア ネット型ゲーム)) ミニテニス </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> 第5学年及び第6学年 ボール運動(ア ゴール型 タグラグビー) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%; text-align: center;"> 第5学年及び第6学年 ボール運動(ア ネット型 つなげよう! 楽しもう! ミニテニス) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> 第5学年及び第6学年 ボール運動(ア ベースボール型 ブレイクベースボール) </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 中学1・2年 ボール運動(ア ネット型) </div> </div>				
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(11名中)				
調査内容	できる	まあまあ	できない	
ラケットを用いて相手コートにボールを何とかして打ち返すことができる。	11	0	0	
正面に来たボールを移動しながら相手コートに打ち返すことができる。	4	7	0	
前後に来たボールを移動しながら相手コートに打ち返すことができる。	4	7	0	
相手コートの一部の場所をねらって打ち返すことができる。	4	3	4	
■本単元の学習に関する意識の状況(8名中)				
調査内容	とても	まあまあ	あまり	ない
体育の学習は好きですか。	8	3	0	0
進んでボール運動の学習に取り組んでいますか。	9	2	0	0
ボール運動で、チームでもっと良い動きをするために考えてプレーしていますか。	9	2	0	0
友達や他のチームの良い動きを参考にしていますか。	9	2	0	0
■考察 ミニテニスは4年時に経験しているため、全員がラケットを使ってボールを打ち返すことができました。しかし、力加減が分からなかったり、移動しながら打ち返すことができなかつたりで、返球したボールがコート外に出てしまう児童も多い。狙った場所に返球したり、ボールの落下点を予測して動いたりすることで、ラリーを続けたり得点につなげたりできるようにルールや用具等工夫する必要がある。				

3 指導に当たっての留意点

- 児童が見通しをもって学習に取り組めるようにするために、1時間の流れを固定したりルールや単元計画を提示したりする。
- 「作戦→試す→確認→改善」のサイクルを細かく確保し、対話の中で少しずつ作戦が向上するようにする。
- 協働的な活動の時間では、ドリルゲームを同じチームでしたり、ワークシートや作戦ボードを活用したりして対話活動を生み出す。
- タスクゲームを同じチームで行うことで、自分やチームの特徴や良さに気づいたり、作戦を確かめやすくしたりする。
- 「問い」を生み出す場面では、ICTを活用して具体的な場面を提示することで児童が課題を発見出来るようにする。

【ESDの視点から課題発見と自己実現の場となるSDGsの取組】

単元を終えて次の学習を促す

- ・ 日常生活でテニスに興味をもち、運動に親しむ。



4 ESD との関連

(1) 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ①多様性…ミニテニスなどのスポーツには、「知る、見る、する、支える」といったいろいろな関わり方がある。
- ②連携性…チームの仲間とともに作戦を考えたり助けあったりして協力している。
- ③責任性…ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで自分の役割を果たしている。
- ④公平性…自分さえよければ良いという考えではなく、チームや学級全体のことを考えて、プレーや審判などを行っている。

(2) 本学習で育てたい ESD の資質・能力

①他者と協力する態度

仲間と協力してラリーを続けたり、得点をとったりするなど、応援したり助け合おうとしたりしている。

②進んで参加する態度

ゲームや練習に進んで参加し、勝敗を受け入れたり友達の考えを認めたりしている。

(3) 本学習で変容を促す ESD の価値観

①世代内の公正

運動が得意な人も苦手な人も、協力し、補い合いながら楽しむことが大切である。

②幸福感に敏感になる、幸福感を重視する。

ラリーが長く続いたり、考えた作戦が成功したりなど、ゲームや練習を通してミニテニスに親しみ、仲間との交流を深める。

(4) 達成が期待される SDGs

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに